

## 新規就農者のレンコン 出荷ピークを迎える

【平成 29 年 2 月 21 日掲載】

三原市大和町の金原貴生（かねはらたかお）さん（33 歳）は、三原市の新規就農者育成研修制度を利用し、市園芸振興センターでの基礎研修やレンコン生産者などでの実地研修を経て、平成 24 年に就農しました。現在は 55a のレンコンを中心に、スイートコーン、ばれいしょなど 65a の露地栽培に取り組んでいます。就農前は市外でデザイン関係の仕事に従事していましたが、両親が大和町で水稻を中心に営農しており、農地や農業用機械が揃っていることが就農するきっかけとなりました。

経営品目にレンコンを選択した理由は、実地研修の中でレンコン栽培が比較的管理しやすく自分に向いていると思ったことだそうです。金原さんは、「レンコン栽培は、単価が安定しており、直売向きで差別化しやすいなど良い点が多い」と意欲的に取り組んでおられます。前職で得たデザイン技術が直売用の看板に生かされ、町内を中心に顧客が増加しており、市外からも買いに来られるほどだそうです。金原さんのレンコン出荷は、昨年 9 月下旬から開始して現在出荷のピークを迎え、寒い中毎日掘り取り作業をされています。出荷は 3 月まで続き、今年度は 6.5 t 出荷予定ですが、平成 31 年には 10 t の出荷量を目指しています。



【掘り取り作業の様子】

【直売所の自作看板】